

日枝神社

日枝神社は、山腹の寺の境内のふもとにある神社です。日枝神社は、比叡山の天台宗総本山、比叡山に敬意を表して山寺が建立された際に建てられました。日枝神社は、山寺の比叡山と宝珠山の守護神である山王権現を祀っています。権現とは、神道神の姿で表される仏教神（仏陀や菩薩）の顕現で、これを祀る神社は、明治時代（1868～1912 年）以前に存在していた神道と仏教の融合を思い出させるものです。神社の建物の手前には、山寺を建立した円仁（794 年～864 年）の手で植えられたとされる、樹齢 1000 年の巨大な銀杏の木がそびえ立っています。この木は、天然記念物です。

日枝神社はおそらく、5 月 17 日に開催される山王祭で最も良く知られています。山王祭では、3 基の神輿が、伝統的な音楽に合わせて、日枝神社から寺下の道路へと運ばれます。神輿の担ぎ手が日枝神社に戻る前に通りを素早く走り抜け、祭りはクライマックスを迎えます。多くの催し物と違い、山王祭では雨が吉兆とされています。伝説によると、たった 3 滴でも雨が神輿にあたれば、翌年は豊作になるそうです。